

ともに生きる

No.2



入学生を迎えて

後援会長

小 谷 忍

入学から早や5ヵ月の月日が経ち、新入生も学生生活に慣れサークル活動などが楽しくなってきた頃でしょう。その反面、寮生や下宿生にとっては親元を離れ、一人暮らしの大変さを感じ始めていると思います。保護者の皆様も、ちゃんと食事を取りているか、など心配が絶えないと思います。

学生数も昨年より倍になり、学校自体に活気が出てきたのではないでしょか。1期生には先輩がいなかったので学園祭などの行事も自分たちでいちからやってきました。そんな1期生も2年生となり1年生を引っ張っていこうとしています。そして、教育内容も変わりつつあります。秋からはヘルパー養成講座も始まります。資格取得のためにも頑張って欲しいと思います。

私も日々在宅介護に従事しています。お年寄りと接し毎日が勉強で、よりお年寄りの思いに近づけたらと頑張っています。入学式の挨拶で「福祉に关心をもち、子どもとのコミュニケーションをとって下さい。」と入学式に出席いただいた方には聞き覚えがあろうかと思います。私事ではありますが、娘とはよく福祉について話し合う機会があります。話することで親の気持ちを娘に知ってもらい、娘の気持ちも知ることができます。日々仕事で接しているお年寄りも子どもへの気持ちを話され、多くの方は子どもへの遠慮が伺えます。我が親も同じことを考えているのかと考えさせられます。

子ども達には福祉の勉強を通して、いろいろな人に接して自分のことや親のこととも考えられる人になってもら

いたいと思っています。

大学生活が始まったばかりですが、4年というものはすぐに経ってしまいます。学生の皆さんには、ボランティア活動にも積極的に参加して経験を積んでほしいと思います。その経験は必ず、将来の自分のためになるはずです。あと2年もすれば、学生数は2千人になります。福祉を志す若者がこんなにもたくさん集まるということは頼もしいことです。開学して2年目の近畿福祉大学を盛りあげていってくれることを期待しています。そして、新しい環境で新しい生活が始まった新入生たちには先生方や先輩から色々なことを学び、成長していってほしいと思います。

最後に、『いつまでも共に生きていこう』という気持ちを忘れずに勉強に、サークル活動などに励んでほしいものです。





社会福祉学科の 今後の取組みについて

社会福祉学科長

笠野 完二

社会福祉学科は、これから日本の社会福祉を担う福祉の専門家を育成することを目標にしております。からの社会福祉は、今までよりもより広範囲で、より多分野に亘る福祉が求められています。そこで、特に本学科が目指しているのは、そのような幅の広い福祉に対応できる学問と技術を身につけ、福祉の対象となる人をよく理解して、心の福祉を実践できる人材を育てることです。幸い、本年度も、この主旨を理解された 260 名の意欲ある学生を新たに迎え、本学科は 520 名の大所帯となりました。

本年度もすでに半ばで、これから後期の授業に入るところですが、学生の学習は順調に進んでおります。1 年次では、まず、一般教育科目で人間科学の基礎を学び、それと平行して専門の基礎的内容の科目も学びます。さらに後期からは演習科目も入ってきます。2 年次からは、

専門科目の比率が増え、演習科目も増えてきます。2 年生からは、講義や演習でのレポート課題も多くなって、図書館の利用者が増え、自主的な学習が進んでいます。また、3 年次に実施する現場実習のための事前指導や準備も進められています。

ご承知のことと思いますが、本学科では、課程修了と同時に「社会福祉士」の国家試験受験資格が得られるようにカリキュラムが組まれており、指定科目をすべて履修することができます。本学科の学生は、全員国家試験の受験を目指していますので、受験を支援するための指導をこれから実施するところです。

また、本年度は、学生指導には気を配り、クラス担任との接触を強化して、学生の指導や相談に応じるようにしておりますが、保護者の方におかれましても、何分のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



介護実習に向けての取組み

介護福祉学科長

安井 秀作

前回、お知らせしました第一段階の介護実習が、この 9 月 3 日から 14 日まで、県内 39 カ所の高齢者・障害者施設において実施されます。実習目標の達成には、施設の協力が不可欠となりますので、去る 6 月 20 日、関係施設の長及び実習指導担当者にお集まりいただき、本学の介護実習計画・到達目標などについて説明しました。

県内には、12 の介護福祉士の養成施設がありますが、4 年制の養成施設は本学のみで、いずれの施設にあっても 4 年制の実習生を受け入れるのは初めての経験となることから、様々な質問が寄せられました。いずれの質問も、前向きなもので、福祉分野で中心的な役割を担う 4 年制介護福祉士への大きな期待を伺わせるものであり、暖かな雰囲気のもとで会議を終了することができました。

一方の当事者である学生に対しては、実習へ向けてのオリエンテーションが開始されました。まず、5 月 22 日には、先輩介護福祉士から、直接、話を聞く機会を設けました。それを通じて、施設での介護福祉士の仕事・役割への理解を深め、その上で、大学の定めた実習目標を基礎として、明確な目標設定のための個別指導が展開されています。

施設には、様々な人々がいますが、そこは、その人た

ちの生活の場です。実習は、そのような場を借りて、利用者との関わりを通して行われることから、実習といえども真剣勝負の世界です。ある障害をもった利用者は、

“私たちのプライバシーを見せるのだから、実習生も本気になって私たちの抱えている問題を受けとめ、また、お腹の底から感じて欲しい”と訴えています。

施設から見て、実習生 “ワースト 3” は、“学校で決められた実習をただこなせばよいと考えている人” “目的意識のない人” “挨拶のできない人” とされています。そのような実習生にならないよう、本学においては、実習直前まで個別指導が続けます。また、学生自身も、介護技術に関しての自己学習に努めるなどを重ねています。

ミルトン・マイヤロフは、“一人の人格をケアすることは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現をすることである” “相手の成長を助けること、そのことによって、私は自分自身を実現する” としています。

学生一人一人が、介護実習を通じて、自分自身が変化し、成熟していくことに気づいて欲しい、そして、そのことが、さらに高い目標達成へ向けての努力へと繋がって欲しいと願っています。



テクノエイドセンターの開設

福祉産業学科 教授

繁 成 剛

テクノエイドとは、福祉の分野で欠かすことのできない「福祉用具」のことを指します。車椅子や杖といえばイメージしやすいと思いますが、広い意味では眼鏡や義足のような補装具もこれに含まれます。つまり、事故や病気あるいは高齢による身体機能の低下で何らかの障害を負った人が、自立した生活を送り、社会参加ができるように補助する道具や機器のことをテクノエイド（Technical Aid）と総称しています。また、施設や家庭で障害者や高齢者を介護する際に、肉体的、精神的な負担を軽減するために考案されたベッドやリフトなどの介助機器も含まれます。

実際に介護の場で選択に困るのは、どのような福祉用具を使えばよいか、どんな機器が市販されているのか、購入するときに公的な補助や給付があるのか、さらに購入したけれどもうまく使えない、などといった状況です。テクノエイドセンターは現在市販されている最新の福祉

用具を一堂に展示し、利用者が実際に試用することによって、最も適した福祉用具を選び、その使い方を学ぶことができる場です。公的な機関としては「介護実習・普及センター」として全国の都道府県に開設されていますが、大学の中に設置されたものはまだありません。本学にテクノエイドセンターが設置されると、学生が福祉用具について深く学ぶ実践的な教室となります。さらに、このセンターを地域の住民や福祉施設の利用者、職員にまで利用していただけるようにすれば、西播磨地区で唯一の福祉用具の展示・情報センターとなるでしょう。

このように、テクノエイドセンターは大学にとっても、周辺地域にとってもたいへん利用価値の高い、有効な施設になることは間違ひありません。

今後とも、テクノエイドセンターについて、後援会の皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。



就職厚生部の取組みの現状と 今後の展開について

就職厚生部長

小 西 博 喜

3

学長の基本方針に「就職は学生諸君にとって人生を左右する重大事であり、大学としても教育活動の集大成である」と述べられています。また、大学の“入り口”（入試）のみならず、“出口”（就職）の状態が大学の評価される要素となっております。さらに、高校や予備校の評価ではその大学の就職先にも着目して進路指導が行われているのが現状です。

大学教育の成果が学生諸君を通じて社会的貢献に還元されるという意味で、大学にとっても就職は重要な社会的責任の役割を果たしているといえます。私たちは、学生諸君や保護者のお気持ちを十分に尊重しながら全学一体の協力体制で、職業適性に即した進路選択の助言や就職支援活動ができればと考えております。

したがって、就職厚生部としては、「求人開拓」と「就職指導」の2本柱を基軸に、前者は主として企業情報の収集、企業訪問、求人票の取得等の実施を考えております。また、後者は、就職指導、職業適性テスト、自己分析、自己開発講座等の助言、各種資格取得支援等を推進していきたいと考えております。

大学としましては、皆さんのが就職意識の啓蒙を図るために、1年次からオリエンテーション、就職講演会、企業経営者、福祉関係の職業講座等をそれぞれ学年に応じた支援プログラム計画を実施し、最終ゴールに向けて成

果の積み上げを目指しております。また、学内では就職相談室を新設し、インターネット検索コーナー、資料コーナー（企業案内）、就職相談コーナー、新聞・雑誌コーナー等就職支援活動にふさわしい環境整備にも努力しております。

今後の就職活動について申しますと、1) 就職指導の充実を図るため、学生諸君とのコミュニケーションを円滑にすること。2) また、助言指導を充実して進路の明確化を図ること。そして、「就職」「職業意識」「プレゼンテーション力」「判断力」「幅広い教養」「インターンシップ導入の本格的な取組み」等、人間形成に関わる指導領域の基本的観点からも限られた大学生活の中で、自分の選択の道を模索していくかなければなりません。

終わりに、学生諸君が具体的な就職活動に入る前、時間的に、精神的にも余裕のある時期に、つまり、学生諸君が自己の職業を選択する準備として、常に自己分析を行いながら自律性アップをはかり、現代社会の実情について知識を深め、自分の将来の進路と生き方について、まず、学生本人と保護者の皆様とのしっかりした話し合いを重ねていくことが中・長期的な必要課題であり、重点目標としては非共お願いしたいと考える次第です。そういうことによって自ずと自己開発の展望に先が見えて来るのではないかでしょうか。



一 質 問 内 容 一

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 氏名 | 4. サークル名 |
| 2. クラス | 5. 趣味・特技 |
| 3. 専門（担当教科） | 6. 好きな言葉 |



1. 井上 美智子
2. a
3. 生物学
4. 園芸療法研究会・フットサル



1. 堤 俊彦
2. c
3. スポーツ運動心理学
4. 硬式テニス部・HCP（ヒューマンケア心理学）研究会
5. テニス・研究活動
6. 生き急ぐほどの世なら茶の花のおくれ咲きなる白きほろほろ



1. 奥野 茂夫
2. a
3. 心理学
5. 旅行
6. 一期一会



1. 水垣 渉
2. d
3. 倫理学
5. 虫を観ること
6. 求めよ、さらば与えられん



1. 小西 博喜
2. b
3. 保健体育・
レクリエーション活動援助法
4. 陸上競技部
5. スポーツ全般（障害者スポーツを含む）・ハンドボール（車椅子ハンドボールを含む）
6. 一期一会



1. 三宮 敦生
2. d
3. 心理学
4. 劇団くらぶ
5. 読書・旅行
6. 現在に生きる



1. 高尾 由子
2. b
3. 哲学
4. 女子テニス



1. 井土 瞳雄
2. d
3. 実習指導演習
4. スマート
5. 作詩・歌・スポーツ全般
6. 雑巾は他の汚れを一生懸命拭いて自分の汚れにまみれている



1. 武内 信子
2. c
3. カウンセリング論
4. 卓球サークル
5. 空を見ること・合唱
6. “小さな親切運動”



1. 北川 泰子
2. e
3. 家政学概論・家政学実習
4. 茶道サークル
5. 茶道・手芸・スキー
6. 足るを知る

任 教 員



1. 近藤 勉
2. e
3. 老人の心理
5. アンティーク蒐集
6. 人は年を重ねただけでは老いない、理想を失う時初めて老いる



1. 佐竹 利文
2. h
3. 外国史
4. 女子サッカー部
5. ターポーツ観戦・魚釣り（子供と一緒に）



1. 吉田 繁子
2. f
3. 栄養学
5. 植物観察
6. 水五則
1. 自ら活動して、他を動かしむるは水なり
2. 常に己の進路を求めてやまざるは水なり



1. 貝原 洋二
2. i
3. 英語
5. 小旅行先での読書
6. 習慣



1. 藤井 資子
2. f
3. 保健体育・レクリエーション活動援助法
4. 男子バレーボール部・
レクリエーションサークル
5. 書道・スポーツ全般
6. 初心忘るべからず



1. 仲渡 一美
2. i
3. イギリス現代史
4. 柔道部
5. フラワーアレンジメント
6. 楽しんでやらなきゃ、何事も身につかない。（シェイクスピア）



1. 相良 憲一
2. g
3. ドイツ語
4. ソフトテニス部
5. 読書・音楽鑑賞・水泳
6. ゲーテ『人は知っているものしか見ない』



1. 阪上 健一
2. j
3. 英語
4. 硬式野球
5. 切手収集
6. 日進月歩・医食同源



1. 中島 友子
2. g
3. 英語
4. 書道部
5. 書道・詩
6. 大丈夫



1. 足立 泰紀
2. j
3. 経済学・日本史
4. 男子バスケットボール部
5. ワールドミュージックを聴く・
山歩き
6. Cool head, Warm heart.
(A.Marshall)



1. 田口 義弘
2. h
3. ドイツ語
5. 散歩
6. 超えよかすかにおまえ自身をおまえの予感の方向に





地域との交流活動について

福祉産業学科 講師

足立泰紀

本学では学友会の諸君が中心となり、福崎町の駅周辺のまちづくりを推進する「えきサイト21」の方々との交流を図っています。大規模店舗の集積による商業地区のシフトに伴う駅周辺地域の停滞状況、スプロール化現象、住民の高齢化現象といった近年の地域が抱える諸問題に対して、「えきサイト21」は、「人にやさしいまちづくり」をコンセプトとして掲げ、近未来の駅周辺のまちづくり、ひいては福崎町全体のそれを様々な角度から考え、行政へも提言し、ユニークな活動を行ってきました。おりしも平成12年春の本学開設以降、多数の通学生、町内に居住する学生が駅周辺を利用するようになり、地域の方々からも福祉を専門に学ぶ学生の意見を是非まちづくりにいかしたいとの要望が出てくるようになりました。そのような意向を受け、今年2月から「えきサイト21」の定例会、世話人会に学生諸君が参加する運びとなり、地域の方々と親密に意見を交わしながら、様々な地域活動を住民の方々と共に実施してきました。5月には新入生歓迎を兼ねた交流会が催され、6月には七種川のクリーン作戦が諸団体の方々の協力のもと実施されました。7月の地区の夏祭り、また「ふるさと景観づくりを考えるフォーラム」には、前期試験やオープンキャンパスが重

なり参加できませんでしたが、後期は、播磨祭での交流、まちづくりの先進地域（多可郡中町）への視察、子供会とのクリスマスイベントや駅前ルミナリエへの協力参加などの活動を行っていく予定です。

福崎町出身の民俗学者柳田國男は、むかしからわが国では「一人前教育」がなされてきたことをしばしば述べています。「一人前教育」は、こどもらを様々な社会的場面に「やらう」（=広い世間において経験させることで自立を促すの意）ことにより行われてきました。地域の方々との交流も現代版「一人前教育」の一場面かもしれません。大学で基礎的な知識、技能を修得することはいうまでもなく重要ですが、多様な考え方の人々との交流を通じて福祉や社会、そして自己を知っていくことも有意義な経験です。なによりも学生達を暖かく受け入れてくれる地域社会があるということは本学にとっても恵まれたことだと思います。「えきサイト21」以外にも本学の学生は様々な方々とボランティアをはじめとする活動を行っています。そのような方々と福祉大生として関わった場が、一人前になったときの第2、第3の心のふるさとになることを願っています。



「ボランティアについて」

学生部

岸上隆之

皆様方は、「ボランティア国際年」という言葉を耳にされたことがおありでしょうか。

これは、1997年に開催された第52回国際連合総会において、日本の提案に基づき世界123の国々が賛同し今年2001年をその年にするということが採択されました。

それにより、日本では1999年10月に「2001年ボランティア国際年推進協議会」が発足し、国際年にに関する広報、ボランティア活動への支援等がなされています。

さて、本学学生のボランティア活動では、まず、町内清掃活動（クリーン作戦）があります。この活動は、年2回（春・秋）、学友会主催のもと、地域の各種団体からも毎回参加していただいている、学生と地域の方々と共に道路等のゴミ拾いを行っています。学生にとって地域とのふれあいの機会にもなっています。

また、サークルによる幼稚園・小学校・老人保健施設・障害者施設・自治体等へのボランティア活動も徐々にですが、増えてまいりました。今年の夏は、各施設から夏祭りでのボランティア依頼が集中しました。

- 学生には、日頃授業で習得したことをもとに、より一層ボランティア活動に励んでもらいたいと思います。例えば、各自治体の社会福祉協議会で登録をしておけば、都合のつく範囲で無理なく活動が可能になります。何事も経験しないと事は始まりません。いろんな場で多くの人と出会い、新しい発見をしてください。判らないことがあれば、自分から積極的に尋ねていく姿勢を持つことが、これから的生活にとって大切なことではないでしょうか。苦労もあると思いますが、自分の財産になるはずです。チャレンジ精神をもとに自分により磨きをかけていただきたいと願っています。



就職講演会



履修登録



クリーン作戦



姫友戦



新入生歓迎会

第2回 播彩祭(はんざいさい)に寄せて

長かった残暑も和らぎ、秋の季節を感じさせる装いとなつた今日、全国学園祭シーズンがやって参りました。

本学では、第2回播彩祭(はんざいさい)を10月27日(土)・28日(日)に「Fresh」というテーマのもと開催します。

テーマは、「21世紀初めての学園祭。何事にも新しい気持ちで取り組んでいく」ということから決めました。

開学して、今年で2年目。私たちが伝統を築いていくのです。

企画内容は、福祉系大学の特色を最大限に生かし、枠を超えたオリジナルな企画を考え、「ぜひ近畿福祉大学の播彩祭に行きたい」と思って頂けるようなものを創りあげるよう、5月から準備に取り掛かっています。

また、地域の方々から多数御協力頂き、一緒に盛り上げて頂いています。

イベント企画は、全国初設置の福祉産業学科の学生を

中心に活動し、日々製作に取り組んでいる福祉機器展示。お年寄りや身体の不自由な方にも、楽に車の乗り降りをして頂ける福祉車両の展示。

「20世紀を彩った女たち」にも取り上げられ、エイボン女性年度賞(1999年)、教育賞を受賞され、社会福祉法人プロップ・ステーション理事長の竹中ナミ氏による特別講演会。

車椅子やバイタルチェックをご自身でも体験して頂ける介護体験。

カラオケ大会、bingoゲーム大会、大学生の主張、餅つきなどを予定。

この機会に、ぜひ「はんざいさい」に足をお運び下さい。当日は、JR福崎駅より南へ50mの本学バス停より、無料バスを運行。

(社会福祉学科2年 王生憲作)

第2回播彩祭 タイムスケジュール

10月27日(土)

時間	ステージ企画	ステージ外企画
10:15	オープニング セレモニー カラオケ大会	福祉機器、車両展示/フリーマーケット 模擬店・学生ライブ 介護体験
11:00		
12:00		
13:00	ダンスサークル発表 bingoゲーム大会	劇団くらぶ発表
14:00	早喰い大会	竹中ナミ 特別講演会
15:00		
16:00	餅つき大会	
17:00	カラオケ大会	
18:00		
19:00	仮装大会	
20:00		

10月28日(日)

時間	ステージ企画	ステージ外企画
10:15	カラオケ大会	福祉機器、車両展示/フリーマーケット 模擬店・学生ライブ 介護体験
11:00		
12:00	大学生の主張	
13:00		さわやかコンテスト
14:00		
15:00	福崎太鼓	
16:00		
17:00		うたいびとはねライブ
18:00		
19:00		
20:00	エンディング 花火	
21:00		

編集後記

この度、教職員、学友会の協力を得て「ともに生きる」第2号を発行する運びとなりました。

10月27～28日の学園祭に皆様のご来学をいただければ幸いです。

(後援会 事務局)

発行日：2001年10月1日

発行：近畿福祉大学後援会

事務局 学生部

〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡 1966-5

Tel (0790) 22-2528

FAX (0790) 22-6941

E-mail:gakuseibu@kinwu.ac.jp